



発行日：令和2年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第56回山部会WGを開催しました！

8月28日(金)に第56回山部会WGを新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で根羽村にて開催しました。今回は出発点である「矢作川の恵みで生きる」について協議したのち、流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)、山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインについての状況報告と意見交換を行いました。今回もオンライン参加者を交えたWGとなりました。

日時：令和2年8月28日(金) 13:30~17:00

場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」

参加者：20名(内オンライン参加5名) ※事務局を含む



## ◆主な会議内容

### 1. 出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有について

流域圏懇談会の出発点である「矢作川の恵みで生きる」について、2012年に設定した未来像や課題を今年一年かけて4つのテーマから検証し、必要に応じて修正・見直しを検討していきます。今回の協議では、修正・見直しにあたり、以下の方針を決定しました。

- ・ 基本的に2012年資料をベースとし、毎年の達成状況や今後の計画等がわかる形で、随時修正・見直しを行う。
- ・ 「共有」の範囲を流域圏懇談会から流域圏内外の地域に拡大していく方向で検討する。

### 2. 流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)の活動進捗状況・計画

今年8月で流域圏懇談会設立10周年です。10年誌づくりのための編集委員会をこれまで9回実施し、10年誌の構成案ができあがりしました。キーパーソンヒアリングの原稿もそろい、編集作業を進めているところです。また、7月に名古屋で座談会を実施し、矢作川流域圏での運動・活動の歴史を振り返りながら、矢作川流域圏懇談会が発展し、広がっていくためのプロセスを検討しました。10年誌は、6つの章構成、120~130ページ、年内発行を目指しています。

### 3. 山村ミーティングの活動進捗状況・計画

森づくりガイドライン、木づかいガイドラインとのつながりを重視し、林業の担い手が集まるミーティングを実施しながら、ガイドラインづくりに参画していくプログラム、スケジュールの具体化を進めています。また、流域圏懇談会に参加する4つの森林組合が一堂に会する機会のひとつとして、10月10・11日に開催される「耕Lifeマルシェ」への参加を検討しています。併せて、10月31日の「いなかとまちの文化祭」への参加を検討しています。

### 4. 森づくりガイドラインの活動進捗状況・計画

林業技術者・技能者など、実際に森をつくり守っている方々の声を森づくりガイドラインに反映させるため、各森林組合の了解を得た上で、技術者の方々が集まり、協議するための段取りを、山村ミーティングと連携しながら進めています。また、流域木材のトレーサビリティは、「矢作川の恵みで生きる」に関係する重要な仕組みのひとつです。そのため、岡崎市森林整備ビジョンの改訂作業の中で指摘されている木材のトレーサビリティについて、協議しました。

### 5. 木づかいガイドラインの活動進捗状況・計画

木づかいガイドラインに関係する根羽村の取り組みとして、林齢平準化への取り組みのひとつとして広葉杉の植栽と単木防護柵チューベックの導入、フォレストガーデン構想としてウッドデッキ等の木のアイテム導入と企業CSR活動としてのハナモモの桃源郷づくり、広葉樹利用のための木質改善乾燥への取り組み、地域社会のフィールド提供として「俺の裏山事業」などの活動状況を報告しました。また、「子どもの居場所」木質空間整備事業や木づかい整備事業など、森林環境譲与税を財源とした事業、木系プロジェクトの状況、デザイナーと森林組合のコラボなどについて、紹介しました。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有

- ・「山村再生担い手づくり事例集」から流域全体の「流域圏担い手づくり事例集」に進化させた。(洲崎)
- ・山村へのシフトについて、前向きに変わってきた10年であったと思う。(丹羽)
- ・この10年でわかってきたこと、新たに出てきた課題を整理し、変化がわかる資料にするとよい。(洲崎)
- ・矢作川流域では皆伐は起きていない。行政も含めて皆伐は望んでいないという方向性と思う。(蔵治)
- ・新しいライフスタイル、価値観などが創造され、山村としてひとつの受け皿になりつつある。(今村)
- ・農山漁村に若い人たちが帰ってきている。農山漁村回帰のような動きが起きていていると感じる。(山本)
- ・「共有」の範囲を考える必要がある。山・川・海があるが、都市という視点が欠けているところがある。(近藤)
  - ▶ 基本的に2012年資料を細かく修正する必要はなく、我々が何を成し遂げてきて、今後何をやっていくかを決めていく。10年間の達成点があって、その上に今後やっていく計画を作っていくというイメージで進めていく。(蔵治)

### ●流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)

- ・矢作川流域で起こってきたことをまとめてみようと思い作成した。対象団体を設立やトピックスを年度順に並べてみると、各時代にやってきたことがわかり、市町村合併をからめてみると非常におもしろい。(近藤)
- ・座談会を行った名古屋市錦町の街中のベンチは、旭の木材であった。次の展望を都市にも向けなければならない。(近藤)
- ・2010年あたりから、新しい人、若い人が入ってきて非常にダイナミックに変化してきた。そうした中で、山、川、海に関わることで、里と都市がもっと魅力的になるのではと思う。(洲崎)
- ・若い人、新しい動きを中心に、色々とおもしろいことが見えてきたと思う。(高橋)

### ●山村ミーティング

- ・矢作川感謝祭は中止となったが、3県組合が一堂に会する機会を消してはならない。(丹羽)
- ・10/10-11の「耕Lifeマルシェ」への参加は、森林組合にも依頼は来ており、OKと回答している。(今村)
- ・「耕Lifeマルシェ」の中に矢作川感謝祭での企画を小規模にして入れ込むと考えればよい。(丹羽)
  - ▶ 市民部会に提案して、流域連携としての位置づけで支援してもらえるかどうかを確認する。(蔵治)
  - ▶ その場合、10/10-11の前に市民部会を設定する必要がある。現時点では日程調整中。(中田)

### ●森づくりガイドライン

- ・上流で生産した材が下流で使われるとき、矢作川流域の材であるという“物語性”が伝わるのが重要と思う。(今村)
- ・岡崎市や西三河の下流域というのは、国産材で建てる住宅の数からいっても相当な需要がある。その材を流域産の材で置き換えられる可能性がある。(蔵治)
- ・岐阜県では、市町村のどこから出た材かを証明し、助成制度も使って県産の材が使われる制度を策定している。(大重)
- ・根羽村森林組合では、子供たちが木の家を知り、考えるためのパンフレットを作成する予定である。(今村)
  - ▶ 「矢作川の恵みで生きる」ということは、まさに矢作川の恵みである材木でできた家に住むことでもある。それが上流側の産業を支えることにもなる。(蔵治)

### ●木づかいガイドライン

- ・森林認証材は、トレーサビリティで使えるのか。(城田)
  - ▶ 伝票で全量証明しているのがトレーサビリティで使える。また、トレーサビリティが確保された形として森林認証を取得するほうがよい。材を出すところと作る場所、それが結ばれているのが森林認証制度と言える。(今村)
- ・産地証明と森林認証は、セットであると考えてよい。(蔵治)
  - ▶ セットと考えてよい。製材加工工場のCOC認証と森林認証をもっているところが結びついて、そのプロセスを経た材が森林認証材となる。(今村)
  - ▶ プロセスをきちっと管理することが、トレーサビリティということになる。(大重)

### ●その他(話題提供)

- ◆矢作川新報記事：8月1日の「水の日」に関連して、水循環基本法のフォローアップの一環として、オンラインセミナーが実施された。記事では、森林と水、上流と下流の関係性など、セミナーの内容等が紹介されている。(蔵治)
- ◆SMOUT 移住研究所レポート：「長野県・根羽村の林業にみる、日本の中山間地域の進むべき未来像」として、根羽村森林組合による林業技術者育成、森林育成等の活動が紹介されている。(今村)

## 今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WG・フィールドワークは、10月23日(金)・24日(土) 恵那市にて開催します。



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 技官 中村



\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。